産業建設常任委員会審査概要報告書

委員長 篠井 哲治

- I 開催年月日 令和 3 年 4 月 21 日 (水)
- II 会議時間 午後 1 時 50 分～午後 2 時 08 分
- III 出席委員等 [出席委員] ◎篠井 哲治 ○中村 清志 坂林 永喜
金平 直巳 樋詰 和子 水口 清志
金森 一郎 高畠 義一
(◎…委員長 ○…副委員長)
- [説明員] 別紙名簿のとおり
- [委員外議員] なし
- [事務局職員] 宮崎 篤生 堀田 寛之
- [傍聴者] なし

IV 審査の概要

1 付託議案について

議案第 85 号 工事請負契約の変更について (下伏間江福田線立体交差整備その 4 工事)

議案第 86 号 工事請負契約の変更について (下伏間江福田線立体交差整備その 5 工事)

以上、議案第 85 号及び議案第 86 号は、賛成多数で、原案のとおり可決すべきものと決した。

〈 審査の過程における質疑は次のとおり。 〉

(以下、質疑・質問内容は ○ 、答弁内容は △ で表示)

【議案第 85 号及び議案第 86 号について】

- 下伏間江福田線立体交差整備工事全体の進捗率は。
- △ 現在、暫定 2 車線の供用の目途が立った状況である。4 車線のうち 2 車線の目途が立ったことから進捗率は 50% である。
- 工事開始からの支出済み額はいくらか。
- △ 約 36 億円である。
- 3 年度以降の工事スケジュールは。
- △ 暫定 2 車線供用開始後は、まず JR への委託工事を先行して実施することになる。その後、城端線両側のスロープ部を市が施工する。工事全体の完了は令和 10 年度

を見込んでいる。

- 地質調査の精度を上げるための今後の改善方針は。
- △ 今回の工事については、7カ所のボーリング調査を行っている。道路協会が示している指針によれば、おおむね200メートルごとに実施するものとされている。ボーリング調査の結果と実際に掘った箇所の水分量が大きく異なっていたことから、発生土を他の工事現場で利用することができなかった。今後は、国や県による調査データの情報ネットワーク、民間が保有するデータの活用、また、専門家によるアドバイスも参考として対応したい。
- 資材費の高騰など、今後の費用増加についての見解は。
- △ 資材費については、需要と供給のバランスがあることから、変動はやむを得ないと考える。しかし、基本的に特殊な材料は使用しておらず、資材費の動向をみながら、発注ロットを大きくするなどし、いかに安く抑えるかが肝要と考えている。一方、人件費については、年々上がり続けている。これは、建設業界の処遇改善や週休2日制などの働き方改革が進んだことが要因である。
- 無理矢理工期を短縮する工期ダンプは絶対に行ってはいけない。一方、ずるずると工事が続くようであれば市民の理解は得られない。この工事の工程管理は非常に難しいと考えるが、今後、工程管理を行う上での注意点は。
- △ 第一期工事はJRと市が並行して工事を行うことができたが、2車線供用後は工事ヤードが半分になってしまうことから、JRの工事を優先させ、それが終了してから市の工事を行うことになる。したがって、第一期工事は4年で終了したが、残りの2車線も4年で終わるかについては、作業の手戻りや着手待ちが発生しないようにするなど、細かく工程を調整していく必要があると考えている。周辺住民や道路利用者にはご迷惑をおかけしていることから、1日も早く工事が完了するよう努めたい。

[討論]

(議案第85号及び議案第86号に反対の立場から)

- 下伏間江福田線立体交差整備工事については、令和3年3月定例会でも地質調査の関係を理由に約3,000万円の増額補正があり、今回と併せて1億円近い増額となっており、公債費比率を抑え、財政規律を保持するという見地から賛同できない。地質調査の在り方、精度の向上に格段の努力を求めたい。

〈 以上で委員会を閉じた。 〉